

「日本における緞帳の歴史」

株式会社 川島織物セルコン（賛助会員）

身装・美術工芸事業部 美術工芸部 部長 長瀬 稔

古来、日本では住＝建築空間に織物を用いる習慣は、西欧に比べ少ない方でありました。「衣・食・住」の住の語は、織物を思い浮かべ難い分野でした。建材は木が主体で、住＝建築空間に関する繊維品は紙（障子・戸・襖）や畳等でありました。

織物としてはわずかに座布団程度であり、一般的な住空間とは少し異なった大空間の社寺・御殿・城館に帳・荘厳などが特殊な例として用いられていた程度に過ぎませんでした。

日本の建物では、人と建材の接するものが繊維質の畳・紙が主体でしたが、西欧の建物では建材が硬質の石・土を主体とした物が多く、人と接する面を和らげる物を求める気分から、自ずと内装に織物を用いる習慣が生まれました。当初は無地のものであったでしょうが、色変化・図柄を施し「装飾」として発展していったのも自然な成り行きであったと考えられます。城館・教堂などにおいて最高の美術織物とされるゴブラン織が多用されているのは、その顕著な例と申せましょう。

西欧においては、壁面に直接図柄を描く大壁画も見られますが、日本では古くは社寺の壁画に散見される程度で「障壁画－障屏画」と総称される分野で戸・襖の絵画・装飾が内装として発展しました。（狩野派・琳派等）

「障壁画」の施された戸・襖はその用途が会議・儀式・応対・講話など、緞帳とは多少異なるものの、手前の部屋と次の間を区切り、用に応じて左右に開閉され、人の視点の全面にあって飾られることにおいては、緞帳と同様の用途に属するものであり、戸・襖に対座する者には、それが開かれるまでの気分の統一の対象としての物であったでしょう。

緞帳は、舞台前面と客席前面を区切って開閉する「用」と、客席

の前面を飾る「装飾」の役目を併せ持っています。舞台幕「緞帳」は、大劇場においては従来、左右から片方に引いて開閉するカーテンのようにたたみ込める裂地による横引き幕が用いられてきました。

日本の劇場・舞台は歌舞伎をその主たるものとしてきましたが、江戸末期には設備の充実も完成の域に達し、明治開国に伴い建築も欧風化が進むにつれて劇場様式も西欧の影響を受け、現在に見るプロセニウムアーチ・大舞台の形態が整いました。

現在のような上下に開閉する緞帳は、明治12年（1879年）新富座でアメリカのグラント将軍観劇記念に贈られた引き幕を緞帳として用いるようになったのが始まりとされています。その後、図柄も単純なものから多様化すると共に、第二次世界大戦直後の昭和20年代前半まで、緞帳製作方法は布地に直接図柄を描くもの、刺繍を施すもの、色布を切り貼りするアップリケなどの手法で製作されてきました。



緞帳製織作業



昭和20年代後半ようやく台頭してきた戦後の復興気運は、工業生産の伸張と共に、文化的な面でも展開をはじめました。いまだ食料事情も低迷する時勢ながら、劇場・ホール of 再建も各地で始まる勢いの中で、有識者は観客の視点のポイントとなる緞帳にヨーロッパのゴブラン織と並び日本で最高の美術工芸織物である綴織の手法を採り入れて作成し好評を得ました。綴織による緞帳は昭和26年(1951年)大阪・朝日会館に吉原治良氏の原画によるものが最初ですが、当時の朝日会館の村山氏、クラレの大原氏などの見識・文化的なものに対する復興期の意気込みも伝わってくる感があります。

続いて産経ホール・毎日ホールなどを始め、東西の劇場・公共ホールにも文化的気運は伝播し、建築家で画家でもあるル・コルビジエ氏、彫刻家のイサム・ノグチ氏などが緞帳作りにデザインから参画するケースもあるなど、工芸織物の一分野が定着して行きました。

特殊な場内空間の雰囲気と照明下で眺めるものであり、場内空間に調和したものの、舞台との関連性を逸脱しない

デザイン調子のものでなければなりません。観客の目を和ませるとともに幕間の休息感、あるいは適度な緊張感から品位をかもし出す内容をもったものなどが要求されます。劇場ホールに限らず、多用途に催されるステージ付ホールにおいて緞帳は「障壁画」での意義と同様の目的を果たしているものと考えられます。

インテリア・エクステリアとして織物緞帳の存在は、ともすれば硬質の室内空間にあって、客席の前面というその質による所を得て、内と外の物の区切りと心の区切りの機能を果たす環境造形(エンバイロメント・クラフト)として位置付けられるといえます。

諸外国においては、過去に数点の納入実績はありますが、劇場の形式や舞台幕への意識の違いがあり積極的に導入されることはありませんでした。国内では全国の公立の会館をはじめ、商業施設等に緞帳を採用戴き、ホールを華麗に飾っております。伝統の技を駆使して織り上げる巨大な織物・緞帳は日本独自の文化といっても過言ではないでしょう。